

ポーの片影

芥川龍之介

青空文庫

ポ―とは、エドガー、アラン、ポ―のことです。ポ―は初めフランスに紹介された時分にはポ―エと呼ばれてゐました。英国人等にも、この読み方をするものがあります。けれども、ポ―がたゞしいことは明かです。モ一つ名前についていへば、エドガーはいゝが、アランは決して彼が自ら持つてをつたものでないといふことです。つまり、アランだけは全然余計なものだといふことです。



ポ―の父はエドガー、デビツト、ポ―といひ、ポ―は二男でした。その父はポ―等三人の子供を残して死んだのです。で已やむを

得ず、ポールはジョン、アランといふ煙えん学者がくしやに養はれることになりました。がポールは間もなくそこを離れてしまったのです。だから、ポール自身は未だ曾て、アラン、ポール等と署名したことはないのです。



アランと呼ばれるやうになつたのは、ポールの全集を編纂したグリスポーツといふ男が故意に書き加へたことによつて初まつたのです。この男は、事毎にポールに反はん噛がうし、毒ついた男で、唯それだけで芸術史上に名を残された男です。（名を後世に残さんとする者は、後世に生命あるであらう芸術家に何でもかまはず喧嘩を売ることです……）



ポーは一八〇九年ボストンに生れた人です。彼が最もよく世に知られたのは、批評家としてゞした。二十六歳の時、彼は既に立派な批評家として全米に認められました。ポーの批評は辛辣で鳴るものです。関係した新聞雑誌の数が四十幾つ、発表した論文が八百あまり、この事実から見て、彼が名文家たり得ないであらうことは窺はれますが、事実彼は、名文家ではあり得ませんでした。



彼は文中終始最上級の言葉ばかり使用する癖がありました。だから褒める場合は九天の高きに迄持上げます。けなす場合は九しん切の底まで落します。或る人の詩を批評した中に、非常な誤りばか

りに充ちてゐるがその中もつとも大きな誤りは、これを印刷したといふことであるなど、いつてをります。所が彼がけなした人と、褒めた人と、彼がいつたほど価値に相違があるとは認められないのです。



ポーには中庸なる批評は出来なかつたのです。そして、いふ迄もなく罵倒非難したものゝ方が遙に多いのです、彼の唯一の友人ローエルさへ、彼ポーは毒藥とインキ壺と間違へてゐるといつた位で、彼の筆端は火を吐いて辛辣に、人に迫つたのです。だから、彼には味方といふものは殆んどありませんでした。彼がその終生を不遇に了つたのは故あることです。

然しポーの悪口は、彼自身の哲学から出てゐたのですから止むを得ないことです。ポーに従へば、批評の役目はアラを探すことにあるといふのです。ポーは斯う云ふのです。作品の美点は批評家が説明して始めて現はれるやうなものではない。自然に現はれ、自然に感得されるのでなければ美点ではない。

だから、真の美点は、何人にもすぐ味得される筈のものだ、従つて、批評の使命は美点を挙げるより欠点を指摘するにある。といふのです。彼はこの信条から悪口に終始した訳です。

ポールは詩は快樂の爲めに作られるものだといつてゐる。詩の目的は其処にのみあるといつてゐる、勿論、詩とは云つても、それは芸術を代表さして云つてゐるのです。そして快樂は何処から生れるかといふに、それは美を感ずることからだといふのです。この主張は、彼の芸術の爲めの芸術の先驅を爲したものです。



ポールは、だから所謂教訓主義には絶対に反対しました。ポールの美に対する考へ方は、その最も高いものはメランコリックなものである。といふのでした。ポールが、この芸術の爲めの芸術を主張した当時は、何等省みられませんでした。やがて、フランスに影響し露英こと悉くその風靡するに任せたことは御存じの通りです。



また彼は Totality of effect といふ言葉を使ひました。彼はこの見地から、詩は一気に読み得るものでなければならぬと主張しました。当時対岸の英国には長詩が非常な勢ひを持つてゐたのですから、その時、敢然として斯^かう云ひ得た彼の卓見と自信とは偉とすべきです。



ポーは彼の^か失樂園の如きは決して詩ではない。彼^あれは詩が所々にあつて、それを散文でつないでゐるのだと。そして彼は結局、詩は百行内外が最適であると云つてゐます。小説に対しても、一度に読み切り得るものでなければならぬと主張してゐるのです。

後代に迄残る作品は短いものと断言してゐるのです。ポー逝いて後の傾向に照し彼の鋭い洞察力に感ぜざるを得ないではありませんか、彼が偉大なる先駆者であることは疑へないところです。



ポーは一八四一年になくなりました。その死の悲惨であつたばかりでなく、死後も亦甚だ浮ばれないものでした。ポーには墓を建る遺産もありませんでした。

バルチモアの親戚のものが、漸くにして石を求め、石屋に刻ませ、いよ／＼出来上がらうとした時、列車が脱線してその家に飛び込み、ポーの石碑は微塵に碎かれて終つたのです。



其後久しくして、其地の学校の女教師が主唱となり、永く掛つて寄附金を集め漸くにして石碑が建ちました、けれども、其の除幕式には、当時米国の文人にして名あるもの一人も参列しませんでした。その中に、タツタ一人、年老た、淋しい一人の人丈だけが、黙々としてその墓碑の前に立ちました、それはホイットマンでした。



ポーは斯く死後迄不幸な人だったので、殊に不幸の最大なるものは、その全集編纂が、「敵」であつたところのグリスボートの手に依つて為されたことです。然しながら、今日ポーの偉大さを疑ふものはありません。偉大なる人は遂に後代をまつより仕方

がないものかと思はれます。

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集 第十二巻」岩波書店

1996（平成8）年10月8日発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：松永正敏

2002年5月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ポーの片影

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>